

4 1

お 名 前	性 別	満年齢	終戦時の年齢	現 住 所
たてべ としあき 建部 明昭	男 性	7 6 歳	1 0 歳	中宇利

宇理国民学校 5 年生

① 8 月 1 5 日は、どこでどんなことをしていましたか。

お盆ぼんだったので、家で遊んだり草とりをしたりしていました。

② 終戦のことを、どこで、どのように聞かれましたか。

かどで草取りをしていたら、お昼ごろに浜松のおじさんはまつ（疎開そかいをしていた和尚おしょうさん）が白い着物姿きものすがたでやってきて、「や〜い、日本が負けたげなぞ〜」と大きな声で教えてくれた。（お寺にあったラジオの玉音放送を聞いたらしい）今でも、その時の様子は、昨日のことのよう覚えています。

③ 敗戦を知らされた時の気持ちやその時の様子

やっぱり日本は負けたかと思った。B 2 9 が頭上を飛び回っているので、勝てるわけがないと思っていたから。

④ 体験の中で、子どもたちに語り伝えておきたいこと

#### 「雨生山で空中戦が……」

昭和 2 0 年の 5 年生になってからのことだったと思います。高等科のクラスと いっしょに、雨生山のふもとの柿畑かきばたへ軍事教練に行きました。その時、アメリカ軍の艦載機かんさいきが 1 機やって来ました。そこへ豊橋の飛行場から来た日本軍の練習機がやって来て、空中戦を始めました。頭上で空中戦を見るのは初めてで、本当におそろしかったです。練習機はプロペラが木製で、速度はおそく高く飛べないので、全く歯が立ちません。艦載機が本気で相手にしなかったのか、幸いなことに練習機は撃墜げきついされずにすみしました。後で分かったことですが、その練習機は飛行場へは戻らず、田原付近へ不時着し、飛行士は畑へ投げ出されて即死そくしだったそうです。銃弾じゅうだんは、雨生山や丸山にたくさん落ちたので、後で拾いに行きました。

艦載機は、民間人めがけて攻撃こうげきしてくることもありました。知人の兄さんは、豊橋の二川駅前ふゆはしのにがわで、低空飛行で飛んできた艦載機に撃たれたそうです。弟がかけ寄ると、兄の体は小さくなっていて、お腹なかに大きな穴あながあいていたそうです。

#### ○ 食べ物のこと

当時は食べ物がなくて、大根やサツマイモがあればよかったです。このあたりは田んぼや畑もあるのですが、疎開そかいしてきた人がたくさんいたので、食べ物が不足していたのです。私の家では、浜松のおじさん家族の他にもおばさん家族もいて、1 0 人ぐらいが疎開していました。だから、みんな栄養不足でした。川で捕ったうなぎやなまずは高級品でした。山いちごなんかももちろん採って食べました。かえるやへびも食べました。それでも、田舎の子たちはまだ丈夫じょうぶでしたが、都会から疎開してきた子たちは体も弱くてかわいそうでした。

## ○ 国民学校のこと

食べ物がなかったので、運動場だけでなく、山を通学団ごとに開こんしてサツマイモを作ったり、山うさぎ狩りに行ったりしました。とったものは、給食として、みんなで食べました。学校では軍事教練も行っており、勉強する時間はあまりありませんでした。当時の先生たちはとても厳しくて、きちんとやらなかったり悪いことをしたりすると、すぐになぐられました。軍事教練では、手りゅう弾によく似た形の石を投げたり、木刀や竹やり訓練をしたりしました。竹やりは自分で作り、油でみがきました。アメリカ軍が上陸してきたら、下から突いてねじるようにしろ、と先生が教えてくれました。

## ○ 戦時中の思い

当時は5年生でしたが、卒業したら海軍の予科練<sup>とつこうたい</sup>に行って特攻隊\*1に入ろうと考えていました。食べ物もなく、ひもじい生活だったので、いっそ戦地に行って、お国のために働きたいと考えていました。村境の石碑<sup>せきひ</sup>が建っているところで、戦争に行く人を送り出したのですが、その姿<sup>すがた</sup>を見るたびに、そう思いました。ただ日本は負けると思っていた。ラジオでは勝っているようなことを言っていたが、いくつかの理由から日本は負けると考えました。一番の理由は、B29が何度も飛んできていたことです。それに、空中戦の後で拾ったアメリカ軍の銃弾<sup>じゅうだん</sup>を見て驚<sup>おどろ</sup>きました。中宇利には、公会堂<sup>くわいかうじ</sup>や富賀寺<sup>ふかかじ</sup>・慈廣寺<sup>じこうじ</sup>など4か所ほどに駐屯<sup>ちゆうとん</sup>していたので、実弾<sup>じつだん</sup>もずいぶん見ましたが、日本軍のものとは比べ物にならないくらい大きくて、しっかりしたものだそうです。大人4人でかつがないと持てないような重機関銃<sup>じゅうきかんじゅう</sup>で演習<sup>えんじゆ</sup>している様子を見ると、弾<sup>たま</sup>はとても小さくて、しかも木製の弾<sup>たま</sup>だったのです。軽いので、撃つと弾は浮き上がっていました。演習用だったかもしれませんが、これでは勝てるわけがないと思いました。5年生の私でも日本は負けると思っていたくらいですから、大人で分かっていた人は多かったはず。ただ、学校でそんなことを言ったら、先生になぐられて大変なことになる。家族の間でも話せませんでした。密告<sup>みつこく</sup>されたら、非国民\*2 となってしまうからです。

### 建部明昭さん所蔵の銃弾<sup>しよぞう じゅうだん</sup>

右：アメリカ軍の機銃の銃弾（18mm）  
左：日本軍の戦車用の砲弾（32mm）



\*1 予科練と特別攻撃隊 P-89-参照

\*2 戦時中に使われたことばで、戦争に協力しない者、協力が不十分な者、さらに生活に不満をもらす者などに使用された。戦争に反対する者は、地域住民から「非国民」よばわりされ、迫害されることもあった。